

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果

9月29日、文部科学省は小学6年と中学3年を対象に4月に実施された平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を公表しました。また、11月28日には道教委から同調査の管内別平均正答率が公表されました。それによると、道内の公立小中学生の平均正答率は国語A・B、算数(数学)A・Bの各4教科全てで全国平均を下回りましたが、小学校の全教科で全国平均との差が縮まったり、中学生の全教科で全国平均との差が縮まり、学力の底上げが見られました。上川管内では、全ての教科で全道平均を上回り、小学校国語Bが全国平均と同程度であり、中学校数学A・Bが全国平均を上回りました。本町の小中学校の結果は、全国平均と比較しますと以下の通りです。

| 教科    | 国語A    | 国語B    | 算数A    | 算数B    |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 和寒小学校 | 下回っている | 下回っている | 下回っている | 下回っている |

| 教科    | 国語A  | 国語B    | 数学A      | 数学B    |
|-------|------|--------|----------|--------|
| 和寒中学校 | ほぼ同値 | 上回っている | やや上回っている | 上回っている |

まず、小学校の国語A・B及び算数のA・Bについては、全国平均を下回っていました。ただ、国語Aの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、100%の正答率が見られたり、「読むこと」において、正答率が全国平均に最も近くなっていました。また算数Aの「数と計算」では、全国平均を上回る正答率が見られたり、「量と測定」では全国平均に最も近くなっていました。児童質問紙では、「家で学校の宿題をしている」「授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っている」と回答した児童の割合が、全国を上回っていました。



次に中学校の国語A・B、数学A・Bは、全ての領域において全国平均を上回っていました。特に、国語Aの「書くこと」では、全国平均を大きく上回る正答率が見られたり、数学A・Bの「図形」と「関数」では、全国平均を大きく上回る正答率がありました。生徒質問紙では、「国語の授業で自分の考えの理由が分かるように気をつけて書いている」「数学の授業で自分の考えの理由が分かるように気をつけて書いている」「家で学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合は、全国を上回っていました。

この調査を通して、小学校では、児童が自分で疑問や課題をもち、それを解決しようとする意欲を高めることが課題としてあげられます。解決のためには、教室の環境整備や学習規律の徹底はもとより、TT(複数指導体制)や個別学習による個人差への対応、宿題や家庭学習などによる基礎・基本の定着が重要となります。一方中学校では、全般的に学習内容が理解され定着していますが、主体的に学習していく態度を養っていくことが課題としてあげられます。その解決には和寒中学校ならではの学力向上策はもとより、達成感や成就感を得る話し合い活動を日常化させていくことが重要となります。また、小中学校ともに一日当たりの勉強時間や読書の時間が極端に短く、テレビやゲームに費やす時間が長い傾向にあります。このことは昨年度と同傾向であり、引き続き学校と家庭が一体となった生活時間の見直しを図り家庭学習の定着に向けて取り組んでいくことが学力向上の鍵となります。

各学校では、この結果を受けて、教員の指導力向上は勿論のこと、家庭との連携を軸に学校改善プランを修正するなどして課題克服に取り組み、学力の向上を図っていきます。

(調査結果は道教委のホームページでも紹介し、和寒町の概要も掲載されています。)